

令和3年 一学期終業式 式辞 (R3.7.22)

令和3年度の一学期を終えるにあたりお話しします。

まず、昨日までの七高祭、皆さんありがとうございました。コロナ禍での制約の多い学校祭ではありましたが生徒会をはじめ皆さんのおかげで、兎にも角にも二年ぶりの学校祭を開催することができました。来年度に向けて大きな一歩です。

さて、一学期の始まりに、皆さんと大きな約束をしました。

メタ認知能力を身につけてほしいということをお願いしましたね。

メタ認知能力とは、自分の他にもう一人の自分がいて、自分の行動や出来事を俯瞰してみることができる能力のこと。問題の本質をつかむことができる能力のこと言います。

とはいえ、難しいかもしれませんので、次のことで確認してみてください。

それは、他人に説明できるか？です。自分の大切にしているものを他人に説明できるか？3年生は今履歴書や志望理由書を作成していると思いますが、志望理由を説明できるか？高次元で物事をしっかりと把握し認識していればできるし、表面的であればできませんよね。

ですから、それができるようになるための宿題を三つ出しました。

「なぜ、学ぶのか？なぜ、学ばなければならないのか？について、自分なりの答えを見つけて欲しい」

「夢を持ち、一日一日を大切に積み重ね継続してほしい」

「自分の命を大切にすること、そして、同じように他人の命を大切にすること」という三つのことをお願いしました。

さて、どのような一学期だったのでしょうか？

約4か月間諸君と暮らして見えてきたことがあります。

それは、君たちは、とても素敵な才能を持っているということです。それは、授業や学校行事、部活動を見ていて実感しました。多分、まだまだ、私も、そして皆さん自身も気づいていない素敵な面がたくさんありそうです。しかしながら、一方で、その素敵な才能に気づいていないからなのか、せっかくの才能を磨いていない生徒や自分のこと、自分の考えを発信できていない生徒が多くいることもわかってきました。

今日は、一学期の終わりですが、二学期準備のスタートの日でもありますので、このことについて、宇宙飛行士の試験に絡めてもう少し、お話ししたいと思います。

ちょうど、昨日は、アマゾンの創業者のジェフ・ベゾス氏率いる「ブルーオリジン」の宇宙船が宇宙空間に到達したことがニュースになっていましたし、4月から、星出彰彦さんが国際宇宙ステーション船長に就任していますので、ちょうどいいかなと思います。

さて、宇宙飛行士になるための試験に、絵のない真っ白なジグソーパズルを完成させるというものがあるそうです。

普通のジグソーパズルであれば、完成した絵が分かっているので、「やってみよう」という気にもなるし、完成が近づくのがわかるので、喜びも湧いてくるものですが、この場合、完成図がないのでやる気も起きないし、喜びも湧きません。

そこで、「これ、何の為にやるのですか？」と質問した人は、選抜から外れるそうです。そして、「はい、やめてください」という合図のあと、「ここまでしかできませんでしたが、合格ですか？・不合格ですか？」と質問する人もだめだそうです。

では、どんな人が合格するののかというと、時間切れで終わった後、「もって帰っていいですか？ 中途半端で終わらせたくないの、持って帰って完成せたい」とい

う人なのだそうです。

同じような話がこの『賢者の書』（著：喜多川 泰・出版ディスカヴァー・トゥエンティワン）に書かれていました。この本の中で主人公の少年（サイド）は、「賢者」からこのようなジグソーパズルの話を教えられます。

人間は、行動の結果、ピースを一つだけ与えられる。しかし、そのピースから完成図（未来の姿）はたやすく想像できるものではない。ところがそのうち、偶然、想像することができるピースが手に入ることがある。その時、想像できたものが、人間が思い描く将来の完成図であり、あなたの「夢」なのだ。

さて、その絵、つまり夢を完成させるために必要なこと、それは、行動すること。

そして、行動の結果、その絵を完成させるために必要なピースを与えられる。しかし、愚かな人間は、せっかく与えられたピースを必要のないものと判断して、捨ててしまったり、無視してしまったりする。

ここで、大切なことは、夢の絵を完成させるために必要なピースかどうかは、その人自身が気づかなければならないということ。行動の結果、手に入るものは失敗でも成功でもなく、**夢実現のために必要なピースだと認識できるかどうか？**ということ。

「一個のピース（つまり行動すること・行動したこと）は、自らの思い描いた絵を完成させるためにどうしても必要なのだ。絵が完成したときに、あのわけの分からなかったピースが、どこでどう使われているのかが、ようやく分かるんだ。あのつらい経験がここに使われることになっていたんだなあ。あの失敗がなかったら、ここを埋めることができなかつたんだなあ。といった具合に」と賢者から教わるお話です。

夢を失った大人はこう言います。「こんなの意味なくねえ。」「これって何になるの？」「どうせ無理だろ・・・」など、皆さんもうわかりますね。こういう人は、大切なピースをすでに失っているということが。

皆さんの中には、今、とっつら思っている、または、何をやってもうまくいかない、どうせ・・・と悩み、将来に向けて不安だらけの生徒がいるかと思えます。

でも、今はわからないかもしれませんが、それらも含めて素敵な大人になるための大切なピースです。そして、この夏休みの経験もまた皆さんにとって、大切な人生のピースであり、夢実現につながるものです。どうか、そのことを信じて行動を起こしてほしいのです。今のお話に興味を持った生徒は、校長室にこの本がありますので、ぜひこの機会に手にして読んでみてください。

私は、学校の夏休みは、古代ギリシアのスコレー（閑暇）だと思います。つまり、夏休みは、皆さんが真に自由であるためのことを考えるための閑暇なのです。そして、校長室は、ポリスの中心アゴラ（広場）です。肩書を超えて自由に議論できる場所だと考えてください。校長室のドアが開いていれば、夏休み中に限らず、いつでも遊びに来て、将来のこと、このピースのことについてお話をしましょう。

二学期。あなたも、私も、お互いに、一層魅力的な人になって会うことを楽しみにしています。

令和3年7月22日

青森県立七戸高等学校

校長 森田 勝博